

No.341 2022.6

十勝教育研究



巻頭言

十勝教育研究所
所 長
山田 洋

教育現場への期待

帯広百年記念館
学芸員
大和田 努



わたしの授業実践

池田町立池田小学校
教 諭
榎本 多陽

わたしの学級経営

士幌町立士幌町中央中学校
教 諭
土井 悠希



日々徒然

芽室町立芽室小学校
教 諭
加藤 友見

日々徒然

音更町立共栄中学校
教 諭
野津 智子



紹介

採用校長 「我が信念を語る」
昇任教頭 「我が決意を語る」
新採用教職員 「我が抱負を語る」

巻頭言

十勝教育研究所
所長

山田 洋



パラダイムの転換 新たな教師の学びの姿

コロナ禍が3年目に突入し、教育界を大きく揺さぶり続けています。そして、その対応力の差も見え隠れし始めています。まだまだ予断を許さない状況ですが、学級閉鎖等の条件が変更される中、感染症対策を強化しつつ、必要な情報に目を向け、子どもの新たな学びの構築と、新たに教師の学びの構築も加速させる必要があります。

令和3年1月の答申では、「先行き不透明な時代」が到来する中で、20

20年代に目指す「令和の日本型学校教育」の在り方を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と定義され

ました。また実現すべき教師の姿として、「教師が技術の発達や新たなニ

ズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている。」とされました。

そして3月、文部科学大臣は、ICTの活用と少人数数学級を車の両輪として「令和の日本型学校教育」を実現するため、「『令和の日本型学校教育

育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」を諮問しました。

未来を担う子どもの学びを実現するためには、教師の学びの在り方を見直す必要があるということです。その後、

11月に、中央教育審議会特別委員会が「審議のまとめ」を発表しました。その中では、高度な専門職である教師の学びの在り方についてパラダイムの転換が起こっているとし、「新たな教師の学びの姿」として次の6点が示されました。

○学び続ける教師

○教師の継続的な学びを支える主体的な姿勢

○個別最適な教師の学び、協働的な教師の学び

○適切な目標設定・現状把握・積極的な「対話」

○質の高い有意義な学習コンテンツ

今後、時代の要請に応じて教師が身に付けるべき資質・能力など基本的な視点が明確にされるとともに、研修記録の活用や教職員支援機構などによる学習コンテンツの提供により、全ての

教師が学び続ける環境を整備していくことが提言されています。「令和の日本型学校教育」の推進者として、「できません」「できているつもり」では済まされない時代がすぐそこまで来ています。

このような中、十勝教育研究所は、今年度も8名の職員で業務を進めています。19市町村全てに協力いただいて進める共同研究は、ICTを生かした子ども主体の学びの構築に視点を当てています。また、協力員をお願いしている協力員研究は、自他を認め合うことを主題に、ICTを活用した「考え、議論する」道徳科の授業づくりに視点を当てています。この二本柱を中核として、省察的実証検証に基づいた調査・研究を進めます。

また、十勝管内教育委員会連絡協議会や十勝教育局のご指導をいただきながら、全国教育研究所連盟や北海道教育研究所連盟などとの研究連携を進め、コロナ禍における困難な状況においても力強く学校教育の下支えとなる情報を提供してまいります。

十勝 教育研究

No.341

June.2022

紹介

採用校長・昇任教頭 新採用教職員の紹介

CONTENTS

16	4	2	1	
◆連載 わたしの授業実践 音楽科の特質に応じて 池田町立池田小学校 教諭 榎本 多陽	◆紹介 採用校長の紹介「我が信念を語る」 昇任教頭の紹介「我が決意を語る」 新採用教職員の紹介「我が抱負を語る」	◆教育現場への期待 帯広百年記念館 学芸員 大和田 努	◆目次	◆巻頭言 パラダイムの転換 新たな教師の学びの姿 十勝教育研究所 所長 山田 洋
◆学校めぐり 浦幌町立上浦幌中央小学校 校長 棚橋 亨	◆日々徒然 絵本の世界 芽室町立芽室小学校 教諭 加藤 友見 「ありがとう」 音更町立共栄中学校 教諭 野津 智子	◆編集後記 共同研究・協力員研究概要 講演会案内・研修会案内 Facebook・HP	◆教育情報 十勝教育研究所の組織・業務内容 刊行物紹介 講演会案内・研修会案内 Facebook・HP	◆連載 わたしの学級経営 一人一人の個性を大切にしながら、 互いを認め合える集団づくり 士幌町立士幌町中央中学校 教諭 土井 悠希



帯広百年記念館 学芸員 大和田 努さん

大和田努さんは、帯広百年記念館の学芸員として活躍されている。本別町出身で、歴史漫画が好きな少年だったという。大学と大学院では日本史学を専攻し、歴史の研究に没頭された。大学院を修了し、帯広百年記念館嘱託職員として勤めた後に正式採用され、現在に至っている。歴史担当の学芸員として、主に十勝の開拓の歴史を研究されている。また、地域の方々への史料紹介や郷土史研究の協力、小学生の展示室見学の解説なども行っている。大谷短期大学非常勤講師も務める大和田さんに、ご自身の仕事への信条や、教育現場に期待することを伺った。

まず、学芸員として大切にされていることについて伺った。

「情報を伝える場面がとて多い仕事ですので、根拠や証拠を示し、それらに基づいて自分の考えを述べるようにしています。例えば、『古文書を読んでもください』との依頼があった際には、私がただ答えを言うのではなく、

古文書の辞書を一緒に見ながら解説するようにしています。『辞書を見ると、この解釈に近いですね』とか、『史料を見ると、これが適切だと思えますね』というスタンスでやるのが大切だと思っています。また、現在はSNS等が発達した一方、正確な情報も入り乱れる時代でもあるので、できるだけ冷静に根本の史料に基づいて話すことを大切にしています。また、百年記念館には本物の資料があることが大きな長所なので、それを生かすような形を心掛けています」

と、相手に寄り添いながら、根拠を基にして伝えることの大切さを教えてくださった。

また、子どもたちと関わる機会も多い大和田さんに、最近の子どもたちに対する印象についても伺った。

「コロナ禍によってデジタルデバイスが普及して、小学生でも1人1台端末を持って見学に来ますよね。ですので、百年記念館でももっとデジタルデ

バイスを活用していきたいです。例えば、昔のことを紹介するとき、これまではプリントを用意していましたが、写真をデジタル化したり、昔の動画を紹介したりできれば、より多くの情報を子どもたちに伝えることができるのではないかと考えています。

それから、子どもの人数が減っていることは、いろいろな部分で影響があるのではないかと思います。同じ教室の中にいろいろな人がいた方が、多様性を知ることになると思うのですよ。いろいろな考え方や家庭環境など、自分と違う人がいること自体が勉強になりますよね。でも、人数が減ってしまうと、その多様性が失われてしまい、画一性が高くなってしまっているのではないかなと感じますね」

と、ICTを使いこなす子どもたちへの感心や、少子化で危惧されることも率直に語ってくださいました。

子どもたちへのエールとして、「自分で関心をもったことを調べてみてください。そのときに、ただ情報を受け取るだけではなく、『あれ？』と

思っていて考えることが大切だと思います。そして、いろいろなことに興味をもって、『あれ？』と思うようなことを増やしていくのが大事だと思います。関心があるものや身近な生活の中でちょっと気になったものを糸口に、身の回りのことに興味をもつことを大事にしてほしいですね」と、語ってくださいました。

最後に大和田さんは、「学習指導や学級経営、生徒指導などで多忙な日々をお過ごしかと思いますが。ですが、先生方も『あれ？』を大切にし、興味のあることを見付けて研究されることは大事だと思います。そういうときに、百年記念館をぜひ活用してください。また、子どもの関心を大切にして、その関心の視野を広げてあげるように指導してほしいです。そうすることで、子どもたちは調べて考えることの楽しさをより実感したり、新たな発見をしたりすると思います」と、先生方へも熱いエールを送ってくださいました。



上：展示室で小学生に説明する大和田さん
下：市民講座で講演する大和田さん



右：緑が丘公園の池から臨む帯広百年記念館

いろいろなことに興味をもち、調べて考える子に。
先生方は子どもたちの関心を広げていく存在に。

帯広百年記念館 問合せ先

- ◆ 電話 0155-24-5352
- ◆ e-mail museum@city.obihiro.hokkaido.jp
- ◆ H P <http://museum-obihiro.jp/occm/>



わたしの 授業実践

～音楽科の
特質に応じて～

池田町立池田小学校

教諭 榎本多陽

■はじめに

私が音楽の授業で大切にしていることは、音楽科の特質に応じた言語活動の充実と、子どもの興味・関心を高める教材・教具の工夫です。

音楽を表現したり、鑑賞したりする活動において、感じたことを言葉で表現することは、とても大切なことだと思います。

また、リコーダーなどの器楽演奏が苦手な子どもたちにとって、技能を習得する活動は学年が上がるにつれて段々と難しくなり、教材・教具や練習方法を工夫する必要があります。

今回は、池田小学校で音楽専科として取り組んだ授業実践について紹介したいと思います。

■音楽科における言語活動

(1) 音楽づくりの工夫

6年生の「役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう」では、思考ツールを使って、個々のイメージをグループで共有しながら創作の学習に取り組

り組みました。この教材では、決められた音階を使って、4人1グループで音楽をつくります。少し不自然な音の並びになっているため、「こういう音楽をつくりたい」という意図をもたないで取り組むと、単なる音の羅列になってしまいます。

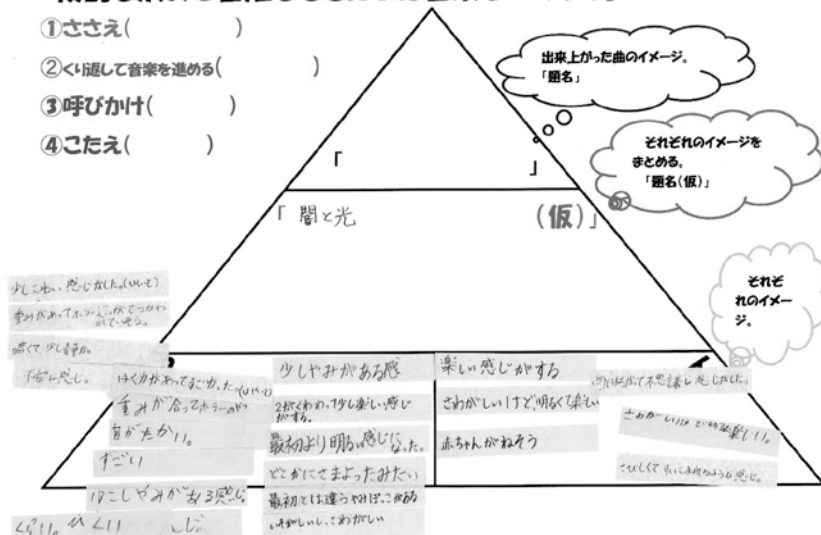
そこで、まず音階から感じることを言葉にして、自分のイメージをはっきりとさせることを大切にしました。今回は、それぞれの子どものイメージをピラミッドチャートに表しました。思考ツールを使うことで、他の子どものイメージやグループでつくりたい音楽について可視化することができたことで、活発な話し合いが行われ創作活動の質が高まりました。

(2) 鑑賞教材の工夫

2年生以上の教科書に載っている「音楽を表すいろいろなことば」を活用します。最初は、その中にある言葉を使いながら、感じたことを書いていた子どもたちが、学習が進むにつれて、そこには載っていない言葉を使い始めます。その新しい表現を紹介すること、更によい言葉を見付けようと

「役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう」

- ①ささえ()
- ②くいでして音楽を進める()
- ③呼びかけ()
- ④こたえ()



するため、音楽を表す語彙が増えていきます。

また、全ての教材においても大切にしているのが、「音楽のもと」といわれる共通事項です。「速度」「強弱」

思考ツールでイメージを可視化した創作活動と
音楽用語の意味をおさえた言語活動。

ミレド
シラソ
ファミレド

＜ルール＞

- ・和音の読み方は、「うっせえわ」などと同じです。
- ・使う音は、ドレミファソラシ(♭)ドレミです。
- ・拍子は、4分の4拍子です。
- ・和音の法則を守ります。
- ・「コーダー」で音をたしかめながらつくります。
- ※「むずかしいな〜」という人は、前に持ってきてください。

☆絶対に守る！！

- ・和音の音から始めます。
- ・和音に入っていない音は、2つまで！！

和音の法則

せんりつがない音の和音だと、ヘン(「:ω:')

和音の音を使って、せんりつをつくれれば、いい感じの曲になる！？

名前

■教材・教具の工夫

(1) 音楽づくりの工夫

5年生の音楽づくりに「和音に合わせてせんりつをつくらう」という学習があります。ここでは、はやりの和音進行に合わせて、簡単な旋律づくりにチャレンジしました。

まずは、和音と旋律との関係について「和音のはたらきを感じ取ろう」という学習と合わせながら理解を深めます。

次に、子どもたちが好きな曲に共通する和音進行があることを動画で確認します。教科書で学習したことが、自分たちの知っている曲にも使われていることで、曲作りに対する意欲が高まりました。

ワークシートの工夫も大切です。和音進行という難しい学習内容を分かりやすくするために、色分けや表を活用してプリントをつくることを心掛けました。

また、新しい教具としてタブレット端末を活用しています。

器楽練習では、音楽に合わせて演奏した見本動画を見ながら個人練習を

進めました。動画はCDに合わせて行う練習よりも、指の動きなどを見ながら練習できるので、器楽演奏が苦手な子どもでも取り組みやすかったようでした。

音楽づくりでは、自分でつくった音楽を記録することや、楽譜にすることが難しいです。しかし、タブレット端末に録画をすることで、創作の過程を簡単に記録することができ、とても便利でした。

(2) 鑑賞教材の工夫

鑑賞の学習では、音源を共有ファイルの中に入れておくことで、自分のペースで音楽を聴くことや、もう一度聴きたいところへ戻って簡単に聴き直すことができます。

6年生の「春の海」では、尺八と琴、フルートとハープの音色の特徴をおさえた上で、どちらの楽器を使った演奏なのかをクイズ形式で紹介しました。タブレット端末を使ったことで、何度も聴き比べている様子が見られ、効果的な活用となりました。

■おわりに

この2年間、「歌えない」「リコー

当たり前に行っていた学習活動ができないこの状況を

「ピンチではなく、チャンス」と考えたい。

ダーや鍵盤ハーモニカの演奏ができない」という制限の中で、音楽科の授業を行う日々が続きました。

私は今まで当たり前に行っていた学習活動ができないこの状況を、「ピンチではなく、チャンス」と考えたいです。新しい授業展開、教材・教具の工夫を大切にし、これからも試行錯誤しながら、子どもたちが楽しく学ぶことができる音楽の授業づくりを実践していきたいと思っています。





わたしの 学級経営

～一人一人の個性を大切にしながら、
互いを認め合える集団づくり～

士幌町立士幌町中央中学校

教諭 土井 悠 希

■はじめに

昨年度の学級経営目標は、「最高学年としての自覚をもち、自己実現に向けて努力する」でした。この目標を達成するために、次の4点を意識して指導に当たりました。

- ① 学習の基礎基本を更に発展させ、進路実現に向けて努力する子どもを育てる。
- ② 基本的な生活習慣をより確かなものにし、リーダー性を育て、最高学年としての自覚と責任をもった集団の育成を図る。
- ③ 互いに協力し合い、自他共に思いやりのある心を大切にできる集団・子どもを育てる。
- ④ 健康な体、健全な心を育てる。

■学習習慣の定着

(1) リレー学習の取組

入学時、家庭学習の時間が0分という子どもがたくさんいました。そのため、まずは5教科のリレー学習に取り組むことにしました。裏表に印刷した

A5サイズの問題に毎日1枚取り組み、家庭学習の習慣が身に付くようにしました。しかし、内容が難しく時間が掛かってしまうためか、答えを写しただけの子どもや、登校してから学校で取り組む子どもがいました。

(2) 家庭学習ノートの取組

そこで、家庭学習ノートの取組を始めました。家庭で一日1ページ以上は取り組み、毎朝提出するというものです。教科、内容、難易度などは、自分で選択してよいことにしました。中には、家庭学習ノートに限らず問題集や各種検定の学習をする子どももいました。どのように家庭学習を行ったのか困っている子どももいたので、他の子どもの取組を学級通信で紹介し、参考にできるようにしました。

また、テスト前には家庭学習の方法を確立させている子どもの勉強方法を紹介したり、放課後に学習会を行ったリして、少しでも苦手克服につながるようにしました。すると、授業中や放課後に子ども同士で教え合う場面が見られたり、積極的に教師に質問してきたりする子どもが徐々に増えてきました。

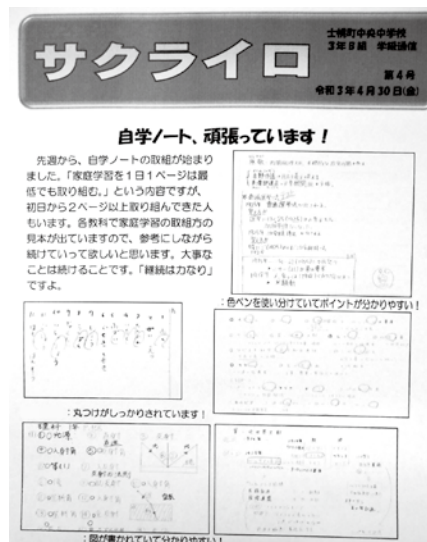
■互いを認め合うことの大切さ

(1) 話合いで意識の共有を図る

行事では本番までの過程を大事に活動してきました。体育祭では、「体育祭の取組で大事にしたいこと」を学級で話し合い、次のような意見が出されました。

- ・お互いにカバーする：誰かが失敗したときにカバーできたら、勝利につながるから。
- ・全力で楽しむ：最後の体育祭だから楽しみたい！楽しむために協力や思いやりが必要だと思った。
- ・安全：コロナやケガに気を付けながら安全に実行すれば、笑顔で楽しめるから。そのためには、「努力」「思いやり」「協力」が不可欠。この3つができれば絆が生まれる。その結

家庭学習の取組を通して、子ども同士で教え合う姿へ。





果、楽しい青春が送れる！

(2) 練習への主体的な取組

昨年度の競技は走る種目が中心でしたが、運動が得意な子も苦手な子も、どうしたらクラスを勝利に導けるかを考えながら、一生懸命練習に取り組んでいました。走順や効率のよいバトンパス、コーナリングなど、意見を出し合って決めていました。当日はお互いに声を掛け合いながらバトンパスが行われ、3年B組一人一人の思いが

バトンでつながっていくのが伝わる体育祭となりました。

ここ数年、行事については日程や内容の変更を余儀なくされました。そのような状況の中、子どもたちには、当たり前の日常がどれだけ尊いことなのかを考える機会をつくったり、日程や内容が変更になっても、元気に活動できることに感謝の気持ちを持ち、今できる限りのことを頑張ろうと伝えたりしてきました。

(3) 互いの長所に目を向ける活動

入試の面接に向けては、自分の長所と短所を知るための学級活動を行いました。しかし、自分一人で考えると短所ばかりに意識が向いてしまう子どもがいました。

そこで、自分の長所に気付くことができるように、お互いのよいところとエピソードを書いて伝え合う活動を行いました。その結果、自分の頑張りやよいところを周りが見てくれていてという安心感を覚えたようです。その後の面接練習では、自己紹介の場面で、自分の長所を自信をもって伝えること

ができていました。

■ 周りから愛される人に

勉強ができることも大事ですが、将来社会に出たときに、勉強だけができても、どこかで挫折してしまう可能性があります。そのようなとき、その人の性格や人柄によって、周りの人が助けてくれるかどうかが決まると思います。子どもたちが周りから愛される人になるために、「何かをしてもらったときには『ありがとう』、失敗したら素直に『ごめんなさい』が言える人」ということを3年間言い続けてきました。人間誰しも失敗はつきものです。入学当初、失敗してもごまかしてしまうため、周囲に認められない子もいましたが、根気強く指導しました。

■ おわりに

この3年間、学年団の先生方にたくさん助けってもらいながら、学級経営を行ってきました。様々な個性あふれる



子どもの多様性にどのように対応していくか、時には悩み、時には相談しながら何とかやってくることができました。周りの先生方には、感謝しかありません。教師という仕事は大変なこともあります。教師という仕事は大変なことある仕事だと思えます。

これからも、子どもたちの可能性を信じ、寄り添っていききたいと思えます。

周りから愛される人になるために、

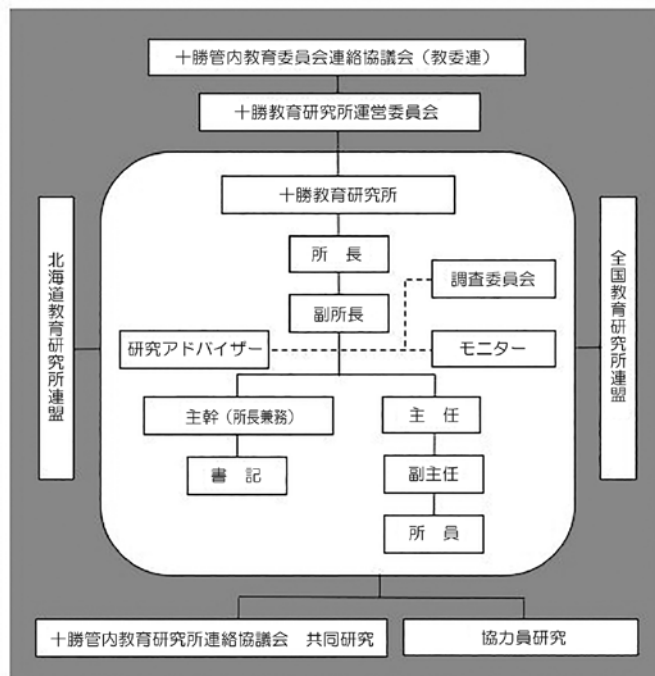
「ありがとう」「ごめんなさい」

が言える人に。

◇運営の基本方針・機構図

十勝教育研究所は十勝管内教育委員会連絡協議会によって設置されている公的な研究機関です。

各市町村教育委員会、十勝教育局並びに教育関係機関、十勝教育研修センターとの密接な連携を図り、その中心的な業務である調査・研究、研修活動、資料提供等を通して、十勝管内の教育の充実、発展に尽くすことを基本方針としております。



◇令和4年度 十勝教育研究所 職員



白澤 大輔 所員 《共同研究》	松村 理史 所員 【協力員研究】	柴田 悠二 所員 【協力員研究】	清水 悦子 書記
杉澤 諭 主任 《共同研究》	山田 洋 所長	大石 浩之 副所長	野村 知未 副主任 《共同研究》

◇ご挨拶

お世話になりました

前主任所員 齊藤 雅彦（幕別町立札内南小学校）
前副主任所員 大橋 一博（芽室町立芽室中学校）

よろしく願いいたします

所 員 柴田 悠二（音更町立緑南中学校）
所 員 白澤 大輔（音更町立木野東小学校）



◇研究機関としての研究

十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究 (24ページ参照)

十勝教育研究所 協力員研究 (25ページ参照)

◇講演会・研修会の開催

十勝管内教育研究所所員研修会 教育講演会 (26ページ参照)

十勝教育研究所研究発表大会

◇関係機関との連携

北海道教育研究所連盟第17次共同研究

全国教育研究所連盟、北海道教育研究所連盟、道東地区・十勝管内教育研究所連絡協議会との連携

◇教育研究相談

校内共同研究の進め方や個人研究の相談など

◇資料の提供

「研究資料・学習指導資料コーナー」

管内小・中学校の研究紀要、各研究所の副読本やキャリア・パスポートなどが閲覧できます。また、教育関係雑誌のバックナンバーも配架しています。

「閲覧コーナー」

【十勝教育研究所発刊物】

研究紀要 共同研究・協力員研究ダイジェスト版 学習指導資料「十勝の子どもの学力」

広報誌「十勝教育研究」

【教育関係雑誌】

『初等教育資料』 『中等教育資料』

『指導と評価』 『道徳と特別活動』

『授業力＆学級経営力』

「教科書コーナー」

図書室内には小・中・高等学校の各教科の教科書を全出版社分取りそろえておりますので、内容を比べてみることもできます。

「研究会お知らせコーナー」

管内で開催される研究会の日程やサークル・北海道立教育研究所等の情報を掲示しています。



◆広報誌「十勝教育研究」

広報誌「十勝教育研究」は、教育の今日的諸課題に関する研究や実践などの発表・交流の場です。発行は年3回を予定しております。

より多くの皆様にご愛読いただけるようレイアウトを工夫してきました。今年度も分かりやすく充実した内容となるように心掛け、編集に努めてまいります。

－学校めぐり－

全ての号で連載します。その学校の特色ある取組を具体的な子どもの姿を交えながら写真とともに掲載します。令和元年から裏表紙で2色刷りとなり、より見やすくなりました。

－教育情報－

当研究所で進める調査・研究（共同研究・協力員研究）や、研究会・発表大会などを中心に十勝管内の教育情報を紹介します。

－共に学び共に育つ－

年2回の連載です。「インクルーシブ教育」の視点に立った実践や、教材教具について掲載します。特別支援学級担任の先生だけではなく、普通学級担任の先生にも紹介をしていただきます。

－特集－

11月号と3月号に掲載します。話題となっているキーワード、現場で求められている指導方法などを分かりやすく解説します。また特集に関わる十勝管内の実践も紹介します。

－わたしの学級経営－

全ての号で連載します。「学級通信のコツ」「家庭学習の進め方」など学級経営を支えるテーマの1つに視点を当て、具体的な実践を紹介いたします。

－健やかな心と体－

年2回の連載です。子どもたちが学びに向かう土台は「心」と「体」の健康です。養護教諭・栄養教諭の皆様にご協力いただき、子どもたちへの関わり方や学校全体での取組を紹介していただきます。

－紹介・挨拶－

6月号では、採用校長・昇任教頭・新採用教職員の皆様からのご挨拶を紹介いたします。3月号では、退職を迎える皆様からのメッセージと、閉校となる学校がある場合、その学校を紹介いたします。

－わたしの授業実践－

全ての号で連載します。「板書のポイント」「ICTの活用」など、授業実践をより高めるテーマの1つに視点を当て、具体的な実践を紹介いたします。

－日々徒然－

全ての号でお2人ずつ紹介します。日々子どもたちとの関わりやプライベートなどで感じた思いを、様々な立場から徒然なるままに執筆していただきます。

◆学習指導資料「十勝の子どもの学力」

教研式標準学力検査C R Tによる十勝の子どもたちの学習状況や各教科における指導の改善について掲載しています。リニューアル2年目となり、小学校3学年から中学校2学年の学力の概観を掲載します。学習指導の改善・充実の基礎的な資料としてご活用ください。

◆研究紀要・ダイジェスト版

十勝教育研究所では、毎年、研究紀要・ダイジェスト版を発行し、共同研究・協力員研究の成果を管内の先生方にお知らせしています。

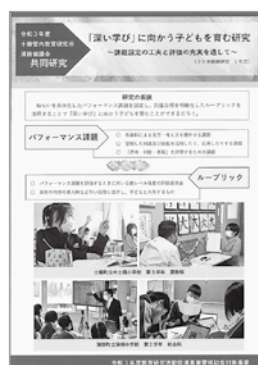
ダイジェスト版は十勝管内全ての先生方に、研究紀要は学校に1冊配布しております。



【十勝の子どもの学力】



【研究紀要】



【共同研究ダイジェスト版】



【協力員研究ダイジェスト版】

十勝教育研究所

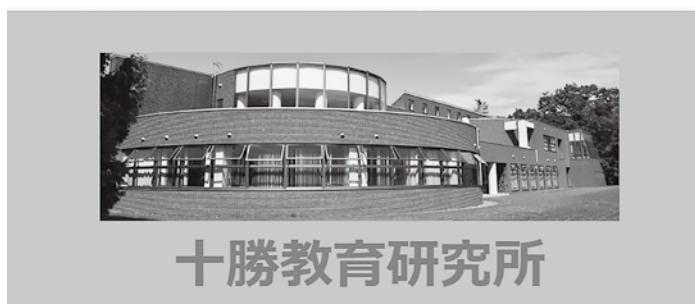
Facebook & HP

十勝教育研究所では、Webでの情報発信を行っています。



Facebookのアプリ内やインターネットブラウザから、「十勝教育研究所」で検索してください。

フォローしていただくと、投稿内容が表示されます。



ホームページへは、インターネットブラウザから「十勝教育研究所」と入力して検索していただくか、右下のQRコードを読み込んでください。

調査・研究に関わって、毎日の授業や学級経営で先生方が活用できる資料や、年間3回発行しています広報誌「十勝教育研究」の記事を掲載しています。



十勝教育研究所の運営方針、組織図、沿革等を掲載

十勝教育研究所が所蔵する研究紀要等の一覧を掲載

各講演会や研究大会の案内・参加報告等、様々な情報を発信

研究資料・学習指導資料コーナーのお知らせ・情報端末コーナー・教科書センター・図書利用案内を掲載

ここからFacebookページにリンク

ホーム お知らせ 十勝教育研究所について 調査・研究 **研究発表大会** カリキュラム支援センター 所蔵資料 FACEBOOKページ

広報誌「十勝教育研究」バックナンバー

広報誌「十勝教育研究」のバックナンバーをPDFで紹介

十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究及び十勝教育研究所協力員研究の概要について紹介

研究発表大会で紹介された研究の概要や資料を見ることができます！

令和3年度より、十勝教育研究所研究発表大会で紹介された「共同研究」や「協力員研究」に関わる資料が見られるようになりました。十勝教育研究所HPからアクセスする場合は、3月に配信されたメールに記載されているパスワードを打ち込んでいただくか、広報誌「十勝教育研究」No.340についているQRコードを読み込むことで資料を閲覧、ダウンロードすることができます。ぜひ、ご活用ください。



<https://www.tokyoken.net/>

深い学び 単元計画 パフォーマンス課題の設定 ルーブリックの活用

共同 研究

〈研究主題〉

「深い学び」に向かう子どもを育む研究

～ICTを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～

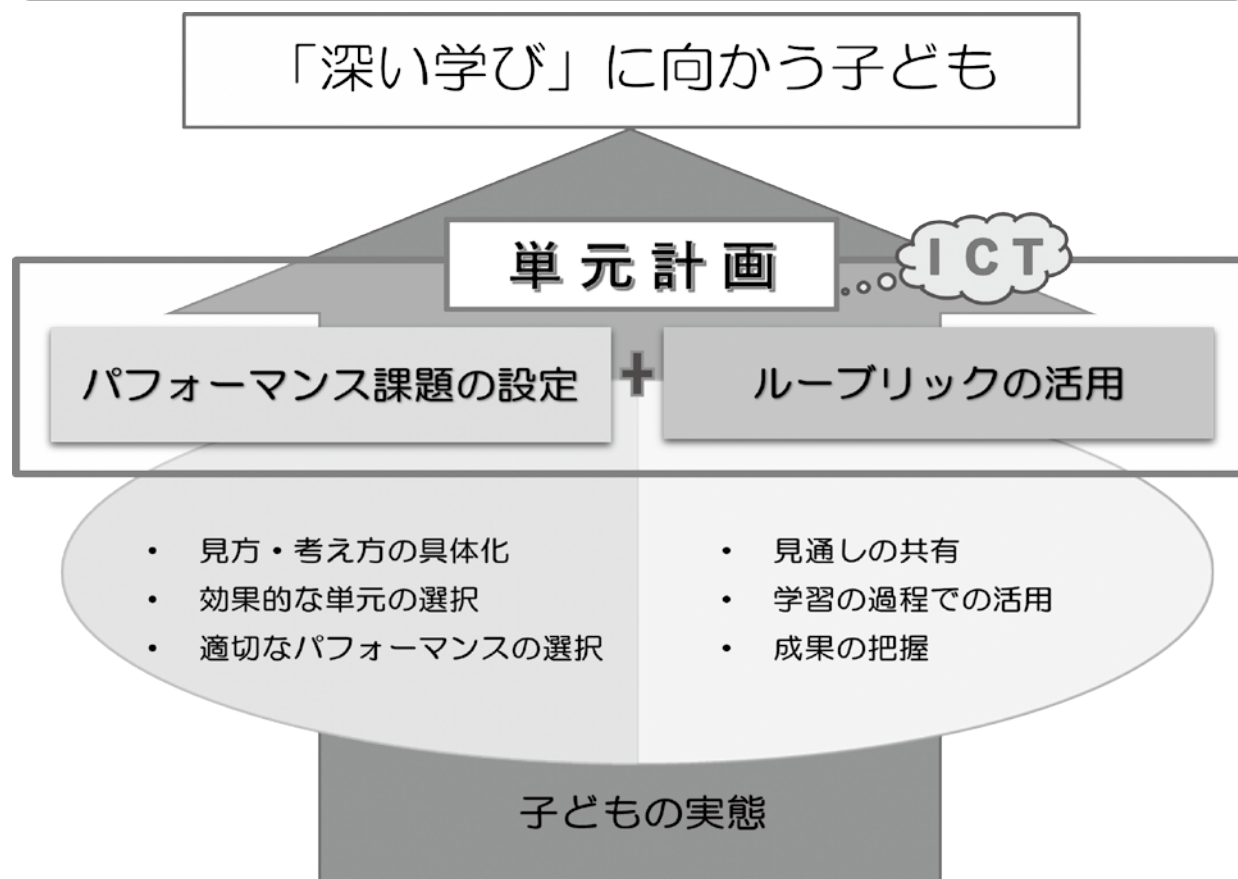
(2 年次継続研究 2 年次)

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果等において、「深い学び」に向かう学習について問う項目で、全国の結果と比較して低い傾向が見られたことから、「深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫改善が必要と考えます。

研究 2 年次では、1 年次の成果と課題から、パフォーマンス課題とルーブリックの活用を更に幅広く実践していく必要があると考えました。また、パフォーマンス課題とルーブリックを単元計画に位置付け、ICT の活用を工夫することで、「深い学び」に向かう子どもを育む研究を進めます。

研究の仮説

パフォーマンス課題とルーブリックを位置付けた単元計画に ICT を生かすことで、「深い学び」に向かう子どもを育むことができるだろう。



管内19市町村の教育研究所と十勝教育研究所が一体となって、授業実践を通した研究を進めます。

協力員 研究



Keyword

自己肯定感 他者の受容
多面的・多角的に考える学習
自分自身との関わりで深める学習

〈研究主題〉

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

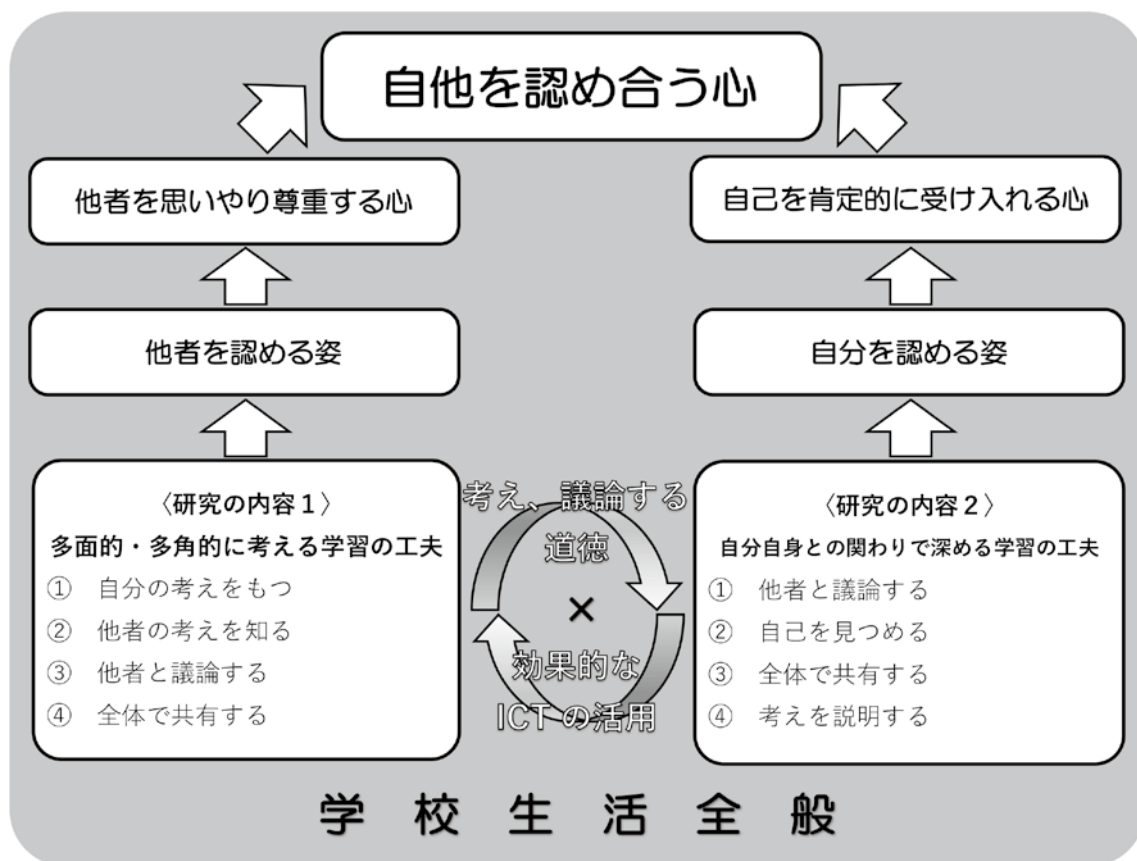
～ICTを活用した「考え、議論する」道徳科の授業を通して～

(2か年継続研究 1年次)

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果を見ると、子どもたちは「自己肯定感や自尊感情」「他者の異なる意見を受容したり認めたりすること」「言葉で適切に表現すること」に課題があると考えられます。また、GIGAスクール構想による1人1台端末が導入され、「ICT機器の活用」の効果的な実践が求められています。そこで、多面的・多角的に考える学習と自分自身との関わりで深める学習の工夫の研究を進めることで、自己を肯定的に受け入れ、他者の考えや立場を思いやり尊重できる「自他を認め合う心」を育む研究を進めます。

研究の仮説

ICTを活用した「考え、議論する道徳」の授業を通して、多面的・多角的に捉えたり、自分自身との関わりの中で深めたりすることで、自他を認め合う心が育まれるだろう。



管内の小・中学校各1校の協力を得て、協力員を委嘱し、授業実践を通じた研究を進めます。

令和4年度

教育講演会

演題

「『資質・能力』を育成する
パフォーマンス評価」



講師 京都大学大学院教育学研究科

にしおか かなえ
教授 西岡 加名恵氏

日時

2022年 8月26日(金)

15:00～16:30(接続開始14:50～)

WEB

Zoomによるオンライン開催

配信側：十勝教育研修センター

お申
込み

各所属機関で取りまとめの上、十勝教育研究所HP
申込みフォームよりお申込みください。

申込締切 8月5日(金)

※「教育講演会」は十勝管内の教職員や教育関係者を対象とした講演会です。



【十勝教育研究所HP】

お問合せ

十勝教育研究所

〒089-0531

幕別町札内曉町290-2

TEL 0155-56-2331

E-mail staff@tokyoken.net

主催 十勝教育研究所

共催 幕別町教育委員会

後援 北海道教育庁十勝教育局

十勝管内教育委員会連絡協議会

十勝小・中校長会 帯広市校長会

十勝管内小中学校教頭会 帯広市教頭会

十勝管内教育研究所連絡協議会

十勝管内教育研究サークル協議会 帯広市教育研究会

協賛 十勝こだまの会

8/26
(金)

十勝管内教育研究所所員研修会 兼 道東地区教育研究所所員研修会

Zoomにてオンライン開催予定

全国教育研究所連盟研究協議会 兼 北海道教育研究所連盟研究発表大会

10/27・28
(木・金)

会場：札幌市生涯学習総合センター(ちえりあ)

2/7
(火)

十勝教育研究所 研究発表大会

Zoomにてオンライン開催予定

共同研究：「深い学び」に向かう子どもを育む研究

～ICTを生かした、
パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～

協力員研究：子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

～ICTを活用した
「考え、議論する」道徳科の授業を通して～



研修会・講習会の詳細につきましては、ホームページやFacebookなどでお知らせします。

編集後記

担当から

例年より早い桜の開花とともに、3年ぶりに行動制限のない大型連休となった今年度でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大にはまだ注意が必要な日々が続きます。

さて、十勝教育研究所では、その年のテーマカラーを決め、様々な刊行物に使用しています。今年度は「深縹色（こきはなだいろ）」を採用しました。深縹とは、藍染の中で最も濃く深い色で、わずかに紫味を含んだ青色のことです。非常に古い色名で、「ふかきはなだ」とも読めます。深縹は、平安末期から鎌倉時代にかけてその濃く勇ましい色合いから、男物の衣装として流行しました。十勝教育研究所では、この深縹色のようにこれまでの伝統を大切にしつつ、時代のニーズに沿った変革を進め、調査・研究や教育情報の発信等を通して十勝管内の教育の充実と発展に努めてまいります。

ご多用中にもかかわらず、原稿を執筆していただきました先生方や関係者の皆様に感謝いたします。

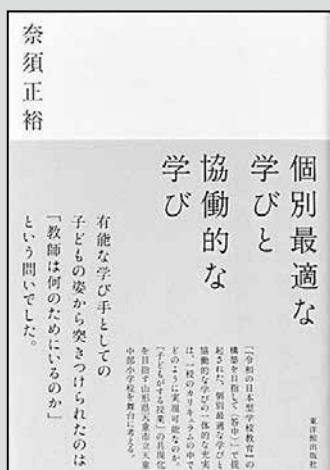
次号予告

特集 ICTの効果的な活用方法

G I G Aスクール構想の実現を目指した取組が始まってから、およそ4年がたちました。広報誌342号では、1人1台端末などのICTを効果的に生かした授業や学級経営の実践例などを中心に特集します。

- ◇巻頭言 ◇教育現場への期待
- ◇わたしの授業実践 ◇わたしの学級経営 ◇共に学び共に育つ
- ◇健やかな心と体 ◇研究所めぐり ◇教育情報 ◇日々徒然
- ◇学校めぐり

担当のオススメ本



令和3年1月に出版された、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」。その答申のキーワードが、「個別最適な学び」「協働的な学び」です。この2つの学びの一体的充実を実現させるための教育観・指導観を山形県の小学校での実践を基に考えていく一冊です。

「個別最適な学びと協働的な学び」
著/奈須 正裕
出版社/東洋館出版社

十勝教育研究

令和4年6月発行

発行所 十勝教育研究所
所長 山田 洋

〒089-0531
中川郡幕別町札内曙町290番地の2
TEL 0155-56-2331
FAX 0155-56-4260
Email staff@tokyoken.net

印刷所 株式会社アド・プリント

日々徒然

何気ない出来事に心を寄せて

絵本の世界

芽室町立芽室小学校

教諭 加藤 友見



息子が産まれてから、家の中がたくさんの絵本であふれている。お下がりでもらった本や、新しく買った本、図書館で借りた本など、古い物から新しい物までいろいろだ。「ママ、これ読んで!」と本棚から次々と絵本を出し、あちらこちらに読んだ本が積み上がっていく。お気に入りの本は一日に何度も読む。字はまだ読めないのに、本の内容を暗記し、読み聞かせもしてくれる。私は、子どもの頃から本を読むのはあまり好きではなかったが、息子の絵本に付き合っていく中で、絵本の世界に魅了されてしまった。それからというもの、図書館へ行くと、息子の絵本を選ぶより先に、自分の読みたい絵本を選ぶようになった。そして、本屋では用がなくても、必ず絵本コーナーに立ち寄る。絵本のことが載っている雑誌も定期購読するほどだ。

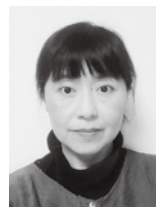
絵本が好きになったからという理由だけではないが、学校でも毎日、国語の時間の最初に、絵本の読み聞かせを行っている。気持ちが落ち込んでいる子や高ぶっている子がいても、絵本を読むとずっと絵本の世界に入り、読み終わる頃にはしっかり学習に向かうことができるようになっていく。絵本の力は偉大だ。

絵本は、私にとって子育てのツールの一つだったが、自分が楽しみ、癒やされるものに変わった。心が温かくなり、意外な発想にクスツと笑い、「こんなことがあったらいいな」と空想の世界に入り込むことができる。絵本は子どもが読むものというイメージがあるが、大人でも絵本を楽しんだり、学んだりできることがあると、息子が生まれてから知ることができた。

「ありがとう」

音更町立共栄中学校

教諭 野津 智子



「相澤先生、そちらでの暮らしは慣れましたか? 大好きな歌を歌っていますか? 日本酒をおいしく飲んでいますか? きつと、たくさんの人たちに囲まれ、ニコニコしながら音楽を教えているのでしょね!」

私が相澤先生と幕別中学校で一緒に過ごしてから、相澤先生が退職された後も含め、8年の付き合いが続いた。文化祭、子ども大会、卒業式など、事あるたびに合唱指導をしていた。授業、言ってくればいつでも手伝いに行くよ」と声を掛けていただき、お願いしなくても、授業に行ったらここにしながら座っている。子どもと一緒に歌いたいのだ。いつも合唱の最後の仕上げを相澤先生にしていた。私が教えた合唱に、相澤先生のマジックがかかり、更に歌が生き生きとしていく。そんな合唱に、客席から「すごい」という声上がる。私と相澤先生は、最強コンビだったのではないかと思う。お茶目な人で、いつも面白くないジョークを連発し、時々ヒットすると笑い、うれしそうな表情を見せる。「さとは発声が悪いなあ」と注意してくれるのも相澤先生。「さと、あの曲よく仕上げたな」って褒めてくれるのも相澤先生。私の愚痴を聞いてくれ、一緒になって戦闘モードに入ってくれたり、時には雑談に花が咲き、一緒になって興奮したり(笑)。そんなやり取りは、病床でも続いた。いつも、相澤先生から私は、元気をもらっていた。

「相澤先生、こちらはコロナで大変です。でも、また伸び伸び歌えるときがきたら、ぐつとくるような合唱を届けますね。だから、『こんなすごい合唱ができたよ!』と胸を張るように頑張ります」

それが、相澤先生にできる、私の「ありがとう」だと思う。天国で聴いててね。



【JA青年部との交流事業】

JAうらほろ青年部の方々を講師として招き、毎年、野菜の栽培などについての指導を受けています。

学校めぐり



浦幌町立上浦幌中央小学校

■児童数 24名（5学級） ■教職員数12名

本校は、学校教育目標を「ひとみを輝かせて精いっぱいとり組む子ども」として掲げ、昭和61年4月に開校し、今年は24名の児童と12名の教職員で教育活動を展開しています。

特に、取組から8年目を迎えた上浦幌学園小中一貫コミュニティ・スクールでは、「ふるさとを思い将来を切り拓く『心』ある子ども」の育成を目指しています。「確かな学力」「たくましい体と心」「未来を切り拓く力」の3つの柱から、学校と保護者、そして地域の皆様と共に連携・協働しながら様々な取組が進められています。



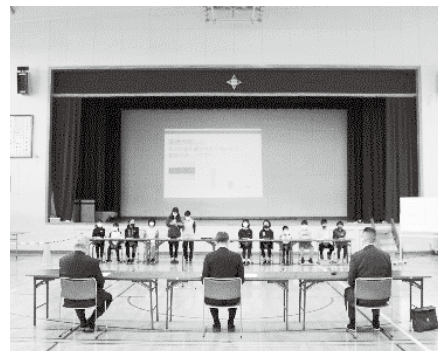
【交通安全街頭指導キャンペーン】

交通安全協会や池田消防署と連携し、中学生と一緒に街頭に立って、交通安全の呼び掛けをしています。



【民泊体験学習】

浦幌小学校と合同で農業や林業、漁業の体験を通して、ふるさとの一次産業についての学びを深めています。



【太陽への手紙】

よりよい学校生活を送るために改善してほしいことを、小学生の視点から浦幌町長に直接、プレゼンテーションで伝えています。



HP QRコード



十勝教育研究所